

平成26年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート

シートNo.1

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。
 ◆館の重点評価項目は、中央図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：中央図書館

区分	事業名	事業概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
課題解決型図書館	◇全館共通評価項目	・市民に身近な生活課題解決のため、レファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・これまで受け付けたレファレンス事例などを盛り込み、定期的に庁内掲示板に掲載して業務での図書館の活用を呼びかけた。 ・レファレンススキル向上のため、図書館職員を対象とした実践的なレファレンス研修を実施した。 ・係員各自がカウンターに入る際、利用者に積極的に声がけをするよう意識した。	・レファレンス件数は、前年度より21%減少した。詳細を見ると、児童関係のレファレンスが目立って減っており、児童の図書館利用が減っていることの影響が出ているものと思われる。	1 大変評価する。22% 2 ある程度評価する。78% 3 評価できない。0%	・迅速かつ的確な情報提供を行うためレファレンスサービスの充実は欠かせない。 ・児童関係のレファレンスの減少は、これから取り組むべき重要な課題である。 ・児童の図書館利用の復活を目指して努力してください。 ・国立国会図書館デジタル資料送信サービスはとても良い。使ってみよう。 ・今一度「レファレンスとは？」を周知する取り組みをするべきである。それだけを取り上げるのではなく、講座やイベントで「コーナー」などを設けて調べることの壁を低くすること。 ・地道な取り組みが浸透していくことに期待したい。 ・児童・生徒向けのネーミングを工夫したらどうか。
	◆館の重点評価項目	・市民ニーズを把握し、新たに専門機関や関係機関と連携して、講座や相談会を実施し、利用の拡大を図る。	・新潟IPC財団と協力し、ビジネスパーソンを対象としたビジネス支援セミナーを2回実施した。 ・マーケティングに役立つオンラインデータベースの活用方法をテーマとしたデータベースセミナーを1回実施した。 ・農業従事者を対象に農業情報に特化したデータベースを紹介するデータベースセミナーを白根図書館を会場に行った。	・ビジネス支援サービス相談受付件数は前年度より8%増加した。ビジネス支援セミナーや庁内掲示板でのPRなど、これまでのビジネスでの図書館活用の呼びかけが効果を上げていると考える。	1 大変評価する。33% 2 ある程度評価する。67% 3 評価できない。0%	・新潟IPC財団との協力でビジネス支援セミナーの実施、オンラインデータベースの活用方法のセミナーの実施等今後、講座を実施し利用の拡大を図るべきである。 ・仕事を探している人も、図書館を身近に感じることができるように、ハローワークにも図書館のビジネス支援サービスの案内や図書館のパンフレットを置くのはどうでしょうか。 ・サービスの内容が広がるのは嬉しい。 ・農業に関しては地域によっては、家庭菜園などにまで対象を広げたらよいのではないか。 ・各区で特徴を活かしたセミナーができればよい。
分権型図書館	◇全館共通評価項目	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を実施する。 ・特に中央図書館所在地域の資料収集に努める。	・特別コレクション展示を4回実施した。 「明治・大正・昭和の雑誌」H26.5.8～9.2 「沼垂の町とゆかりの画家」H26.9.4～12.2 「坂口三千代『カクワ日記』と『フリア古書堂』の本棚」H26.12.4～H27.3.3 「にいがたを知るブック展」H27.3.5～6.28 「沼垂ゆかりの画人・長井雲坪」と題して地域連携事業講演会を行った。	・特別コレクション展示を行い、新潟ゆかりの人物や図書館が所蔵する郷土資料について広くPRすることができた。 ・地域の歴史研究グループや東地区公民館と連携・協力し、地域に密着したテーマで講演会を開催することができた。	1 大変評価する。78% 2 ある程度評価する。22% 3 評価できない。0%	・4回の特別コレクション展示で新潟ゆかりの人物や郷土資料について広くPRできたことは、評価したい。 ・地域との連携を一層深めてほしい。 ・沼垂地域に住むものにとっては、(郷土資料に関する事業など)ありがたい。 ・時期を得た企画がよかった。関連本や資料館など関連事業の施設への案内などがあること。 ・地域の史資料集積拠点として、存在感を発揮してほしい。
	◆館の重点評価項目	・6つの図書館協議会の全委員を対象に意見交換をしていただき、図書館の事業についての理解と関心を深めていただくとともに、話し合われた内容を図書館の運営に活かす。	・平成26年度は、新たに設置された坂井輪図書館協議会を加えた7つの図書館協議会委員の参加により、「新潟市立図書館ビジョン後期施策・事業計画」案と「第二次新潟市子ども読書活動推進計画」案について、「新潟市立図書館ビジョン後期施策・事業計画」案は50件、「第二次新潟市子ども読書活動推進計画」案については49件のご意見をいただいた。	・新潟市立図書館の方針となる2つの計画作成に関して、合同情報交換会で一同に参集した会で、いろいろな立場から多くの意見をいただき、計画決定の参考とすることができた。	1 大変評価する。44% 2 ある程度評価する。56% 3 評価できない。0%	・各地区の特色・問題・視点を知り参考になった。 ・もっと時間の余裕が欲しかった。
学・社・民融合型図書館	◇全館共通評価項目	・1歳誕生歯科健診会場において、赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせを体験していただく「ブックスタート」を実施する。	・中央図書館が所管する4区(東区、中央区、江南区、西区)において、4,314人にブックスタートを実施した。実施率は92%だった。	・関係各課との連携や、ボランティアの協力により円滑に実施できた。 ・坂井輪図書館が中心図書館としてリニューアルオープンしたことから、西区のブックスタートを坂井輪図書館へ引き継ぐ準備を行った。	1 大変評価する。67% 2 ある程度評価する。33% 3 評価できない。0%	・赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせを体験する「ブックスタート」の取組みが素晴らしい。 ・ブックスタートは最も大きな施策の一つであり、これからがんばってほしい。 ・ブックスタートを図書館利用にどうつなげるかが、よく問題にあがっていましたが、「赤ちゃんタイム」が始まりとても良い。 ・若い人の参加は、赤ちゃんも含めて今後の図書館の大事な利用者である。 ・新潟市の0歳児～小学校中学年までの読書の取組みは、中断がなくて素晴らしい。 ・担当職員及びボランティアがブックスタートの意義を再確認する必要性を感じた。
	◆館の重点評価項目	中心図書館4館に設けた学校図書館支援センターが、関係課・機関と連携し、学校図書館の活用が更に進むよう支援する。	・学校図書館訪問(298回)、業務相談(1,397件)、新任学校司書研修(5回)、学校司書実務研修(11回)、学校ボランティア支援研修(8校11回)を実施した。 ・総合教育センター「教諭と司書連携充実」研修に参画、学校支援課事業「いのちの大切さを考える取り組み」に読み聞かせの協力をした。 ・全国学校図書館研究大会での実践発表等、情報発信をした。 ・学校図書館支援の取組みを含めて、中央図書館が平成26年度子ども読書活動優秀実践図書館として文部大臣表彰を受賞した。	・学校図書館訪問や校長会での説明を重ね、学校全体での学校図書館運営を呼びかけ、図書館活用が広がった。 ・学校図書館関係課・機関連絡会議を通して、教育委員会内で学校図書館活用の推進に向けての連携が進んだ。 ・学校図書館活用推進校事業や、特別支援学校の学校図書館整備を新規・重点事業として、「第二次新潟市子ども読書活動推進計画」を策定することができた。 ・学校図書館支援の取組みについて他の自治体からの視察依頼が増え、あわせて学校図書館見学の要望も寄せられるようになった。	1 大変評価する。78% 2 ある程度評価する。11% 3 評価できない。11%	・学校図書館支援センターが関係課・機関と連携し、学校図書館の活用が更に進むよう支援することに賛成する。 ・学校図書館支援センターの役割は大変重要である。 ・司書が少ないようなので、仕事がしやすくなるような研修を、よりステップアップしてほしい。 ・年々充実してきていることを評価します。 ・学校図書館支援センターの役割、意義を知ったが、大きな力を発揮している。学校司書の身分が安定する取組み体制も必要だと考える。 ・全国的にも優れた新潟市の取組みである。すばらしい取組みである。 ・学校図書館の活性化に寄与してほしい。 ・学校での子どもの読書環境の把握を積極的にしてほしい。 ・児童の図書館離れについては、図書館は継続的に働き掛けることが大切である。
パートナーシップ型図書館	◇全館共通評価項目	・市民との協働をいっそう推進するためボランティア・教育機関や民間団体と連携して事業を行う。	・読み聞かせ等団体や中央図書館友の会を含む子どもの読書活動を支援する団体の5団体と16件の共催事業を実施した。 ・市民から実行委員を募り、実行委員会主催として「ほんぼーとビブリオバトル」を開催した。 ・子ども対象の事業では、読み聞かせボランティア団体との共催による読み聞かせやおはなし会など季節に合わせた事業を開催した。 ・中央図書館では書店との共催事業や企業との共催展示を行った。また、新潟日報社と連携し、メディアシップ情報館コンパスで、新潟に関連した5テーマで資料展示を行った。	・中央図書館友の会と共催し、「本とあそぼう全国おはなし隊」「子どもフェスティバル」を実施した。 ・「ほんぼーとビブリオバトル」には、午前(中高生の部:29人)・午後(一般の部:47人)あわせて76人の参加があり、市民の協力を得て実施することができた。 ・読み聞かせなど子ども・親子向け事業を共催で定期的に行っていることに加えて、季節ごとの事業も連携・協働を進めている。 ・共催・連携・協働事業は昨年度に比べて増えている。	1 大変評価する。67% 2 ある程度評価する。33% 3 評価できない。0%	・中央図書館友の会との共催、子ども親子向け事業の共催は連携・協働を進める上で欠かせないものだと思う。 ・「ほんぼーとビブリオバトル」が大変楽しかったという参加者の声を聞いた。好評だった企画は続けてほしい。 ・高齢者(特に男性)をボランティアに誘い、他人と繋がることを楽しみ、笑顔で参加していただきたい。 ・読み聞かせなどのボランティアの力や人数とも長年の積み重ねだと思う。高齢者社会に向けて、対象を広げることも求められるのではないか。 ・全市民への周知はなかなか難しいと思われるが、いろいろな方法で呼びかけをしたらどうか。
	◆館の重点評価項目	ボランティアと連携した事業を行う。	・子どもの読書週間または秋の読書週間のおはなし会や、「クリスマスカードをつくろう」などでボランティアと連携して事業を実施した。 ・読み聞かせボランティア団体との共催のほか、中央図書館友の会との子どもフェスティバルや古本市を行った。 ・また、ビブリオバトルや利用者懇談会をボランティアによる実行委員会により開催した。	・おはなし会等への協力団体が、昨年度より3団体増え、15団体になった。 ・ボランティアとの連携事業の実施回数が12回から15回に増えたことにより、読書に親しむ機会の増加につながった。 ・新たな事業に実行委員を募集するなど市民との協働を広げることができた。	1 大変評価する。67% 2 ある程度評価する。33% 3 評価できない。0%	・読書集荷を利用してのおはなし会や子どもフェスティバル、古本市のボランティアとの連携は、読書に親しむ機会の増加等、いい結果をもたらした。 ・フェスティバルやイベントではもっと地域や学校へ呼び掛けしてみようではないか。 ・様々な人が協働することで、図書館の活動が広がり生まれ、また多くの市民に図書館に関心を持ってもらう機会になる。 ・事業が「本を楽しむ機会」の増加につながったことは、ボランティアにとっても励みになる。